

# 平成22年度 【大学振興会研究奨励補助】研究成果報告書

学部名 現代マネジメント学部

フリガナ サジ タカオ  
氏名 佐治 孝夫

研究期間 平成22年度

研究課題名 南欧諸国の民主化過程の比較分析

## 研究組織

|       | 氏名    | 学部         | 職位 |
|-------|-------|------------|----|
| 研究代表者 | 佐治 孝夫 | 現代マネジメント学部 | 教授 |
| 研究分担者 |       |            |    |
| 研究分担者 |       |            |    |

## 1. 本研究開始の背景や目的等

世界を席卷した民主化の「第三の波」の起点となったスペイン、ポルトガル、ギリシャの南欧諸国の民主化を事例に、独裁政から民主政への移行の政治過程において、政府と民主派との交渉パターンが決定的に重要であること、そして対立解決の様式がその後の民主政治の定着過程にかんする分析に有益であることを実証したい。本研究は権威主義体制からの脱却期間が「命令と強要」から「交渉と妥協」への転換によって特徴づけられ、さらに、対立解決の支配的様式が、「交渉と妥協」から「競争と協力」に転換するとともに、民主主義的支配の定着に向かっての前進が達成されることの理論的および実証的分析を追求する。

## 2. 研究方法等

南欧諸国は競争段階に早期に到達したが、権力配分をめぐる未解決の諸問題を抱え、そしてエリート間の対立的態度によって、ポリアーキー型政治システムの一層の定着に時間を要した。この二つの要因が対立解決の協力的様式を阻害してきたことを、N. プーランザスの「独裁の危機」論とJ. リンスらの「権威主義体制」論をフレームとして解明する。

これと並行して、権威主義体制の民主化をより広い政治体制論の文脈で捉え返すことで、政治体制論の動態化を目指した。

### 3. 研究成果の概要

本研究では、90年代以降展開する全世界的な民主化を1974年のポルトガル革命に始まる「民主化の第三の波」の文脈で比較するための枠組みの設定に努めた。すなわち、南欧諸国の独裁体制を現代型独裁である「権威主義体制」の下位類型として把握し、その特徴を（中南米諸国の）他の下位類型との比較の中で浮き彫りにし、同時にその民主化過程についても比較論的＝類型論的に把握するための枠組みを構築した。その構成は次の通りである。1. 権威主義体制の実相：（1）限定的な多元主義（2）低度の動員とアバシーへの依存（3）メンタリティーへの依存（4）一定の予測可能な政策決定、2. 開発独裁：第三世界の独裁体制、3. 権威主義体制の民主化過程：（1）民主化の原因（2）民主化の過程（3）民主化の共通の特徴（4）民主主義体制の安定条件である。今後はこの枠組みのより具体的な概念設定と、比較政治体制論の広い文脈において検討することが課題となろう。

### 4. キーワード

|        |         |          |           |
|--------|---------|----------|-----------|
| ① 独裁体制 | ② 民主化の波 | ③ 権威主義体制 | ④ 比較政治体制論 |
| ⑤      | ⑥       | ⑦        | ⑧         |

**5. 研究成果及び今後の展望**（公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著者名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他○名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。）

研究成果の第一段階として、2編の著作を刊行する予定である。

1. 比較政治体制論の概念枠組みの再構築のために、  
H. D. ラスウェル『権力と社会』（共訳、芦書房）
2. 南欧諸国の民主化についての既存研究の整理として  
「権威主義体制の民主化過程の比較分析のために」（論文、未定）